

ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学

名前 内田 学

作成日 2020年3月25日

【責任】

商学科に所属し、商学部必修科目である「商学」や自身の専門科目である「マーケティング論」の他、「経営学」や「戦略的経営論」を担当している。

ゼミ活動としては主にマーケティング戦略やスポーツ・マーケティングを学習しており、ゼミ合宿ではプロ野球球団などを訪問し、取材をさせてもらっている。また、神奈川産学チャレンジプログラムにも参加している。さらに外国書購読を行っており、英語力の強化にも励んでいる。

学内の委員会ではキャリア専門部会に所属しており、学生の就職支援のサポートを行っている。また、軟式野球部の顧問も務めている。2020年度からは商学科長も務める予定である。

【理念】

現在のような先行きの見えない時代においては、高度経済成長時代におけるような企業に従順な従業員では成果を出すことが難しい。このような時代を生き抜くためには、自身で未来を予測し、何をなすべきかを考えられる力を身につけなくてはならない。そのためには、基礎学力を身に付け、自身の土台を大きくする必要がある。また、学生の時代から社会との接点を持っていることは非常に重要である。

さらに、日本人だけで国を担っていくことができなくなっている昨今では、多文化を理解し、外国人とのコミュニケーションをはかっていく必要がある。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために本学では、「先の見えない時代における実践力」を保持し、「多文化への理解と共存」に対応できる学生を育成したい。

「先の見えない時代における実践力」

・方針1：基礎知識の定着

・方法：授業では、丁寧な解説を心掛け、さらに同じ質問を何回も繰り返すことで、知識の定着を目指している。

・方針2：実学の重要性&社会との接点の提供

・方法：商学では実学が重要である。そのため、理論のみならず事例を多数、学んでいる（ケーススタディ）。自身が起業したり、ビジネスパーソンになって壁にぶつかった折には必ず参考になるはずである。また、授業やゼミ内に社会人のゲスト講師をお招き

し、現実にビジネスの現況はどのようになっているのかを学ぶ。

・方針3：プレゼンテーション能力の向上

- ・方法1：神奈川県産学チャレンジプログラム等の外部の大会に参加することでプレゼンテーション力や実践力を身に着ける。
- ・方法2：ゼミ内で多数、発表を行うことでプレゼンテーション能力を向上させる。

「多文化への理解と共存」

・方針1：外国人とのコミュニケーションを円滑に進めるために、必要最低限の英語を身に着けることは必要不可欠である。

・方法1：本学の英語の授業を真剣に受けるように伝え、ゼミでは外国書を購読している。

・方法2：英検やTOEICなど、民間の試験の積極的な受験を推奨している。

・方針2：これまでの日本とは異なり、今後は自身の上司が外国人になることも珍しくはない。そのため、これまでのように日本だけの常識では対応できない。多文化を理解することは重要である。

・方法1：海外への旅行のみならず、オリンピックでのボランティアや短期留学を薦めている。

・方法2：留学生との積極的なコミュニケーションを推奨する。

【評価・成果】

- ・担当しているほとんどの科目において、半数以上の学生が「満足」と回答してくれている。
- ・大学1、2年のうちからインターンシップに参加する意欲的な学生が増えている。
- ・ゼミ内で行っている英語の試験では、15人中12人が英検3級レベル以上の力を身に着けている。
- ・「神奈川産学チャレンジプログラム」では、優秀賞を受賞することができた。

【目標】

- ・社会に出ても恥ずかしくない学生を育成する（3年後）。
- ・グローバルに活躍できる上位学生を育成する（5年後）。
- ・本学が即戦力となる学生の育成で評判となり、首都圏で選ばれる大学になる（10年後）。